

スマイル タウン

コロナで 4・5・6月号
は休刊しました。

2020
7・8
月

第308号

みんなでつないだ
50年
★★★★★
日野社会教育センター
Since 1969



Uの社会教育センターは、市民のみなさまの
“やりたい”を実現し、「豊かなくらし」を応援する
施設として、1969年に日野市と勤社会教育協会が
協定書に基づいて設立しました。
今月もセンターで生きがいづくりをされる沢山の
市民の方々の活動をお伝えします。



大人クラス「日本画」

千年以上続く
日本古来の
絵画技法

- シリーズ「今さら聞けない!?『社会教育』」①
- 表紙の講師は…「水彩スケッチ・日本画」教室 杉本洋先生
- センターからのご案内
- モグモグレンピ・賛助会・寄付お礼





第1回「社会教育とは、そもそも何!？」

第1回対談は、荒井先生と、ひの社会教育センター事業部の職員・山本江里子と寺田達也です。

寺田：センターは「社会教育の施設」ですが、そもそも社会教育とはどういうことを指すのでしょうか。

荒井：いきなり逆の質問をしますが、「社会教育とは何か」と言われたら、どう考えていますか？

寺田：センターの関係者それぞれでもいろいろな社会教育の捉え方があってまとまらないです。(笑)

荒井：個人の想いと理屈というのは一枚岩じゃない。自分自身でもずっと葛藤しています。でも、これまでの実践やその歴史、社会の情勢などを含めていくと、理屈について言えることがあるわけです。

山本：私は以前、美術館の職員をしていました。美術館も社会教育施設の一つなのですが、美術館での教育普及や生涯学習というものを勉強するなかで、「成績やテストのためにありがちな学校教育の他に、自分が好きなことを生涯学び続けられる場所があるって、なんて魅力的なんだろう」と思いました。

美術館では「どうやって多くの人来てもらおうか」を日々考えていたの

ですが、そのときに気づいたことは、まずは「教育」というものがないと、そもそも「美術館に来たい」という子どもも育たないし、その先の大人も来ない。そのために、学校教育はもちろん、家庭教育、社会教育というものの必要性を強く感じました。ちなみに、大人の来館者から一番よく質問されたのは「どれが一番高い絵なの？」ってことでした(笑)

荒井：興味を持つ入り口としてはいいかもしれないですね(笑)

山本：もつと暮らしに身近なところで、文化意識や感性を育み合えるような社会教育を考えられたら面白いのではないかと思うんです。

今、様々なカルチャーセンターやカフェなどのワークショップでも、魅力的な学びがいっぱいあります。それはそれでいいことだし、それも一緒に高めあいながら、社会教育センターは今後どうあるべきかを考えていて…

荒井：いやあ、これは深い問いですねえ…(笑)

▼物腰やわらかな荒井先生のわかりやすいお話。



▲荒井先生との対談は、和気あいあいと進み、時間を忘れてしまいます

寺田：僕は社会教育を捉えた概念はいくつか聞いたことがあります。ある時は「学校教育、家庭教育、それ以外の教育は全て社会教育」と聞き、またある時は「何かを学ぶことを生涯学習、学んだことをなんらかの形で発信するプロセスが社会教育」と教わり、またまたある時は「課題に対して、考えや意見をもつことが社会教育」だという概念も登場し、社会教育の捉え方に右往左往しています。

また、よく「カルチャーセンター」と「社会教育センター」は同じなのか違うのかということが議論になります。自分たちでは、違うものだととらえています。それが何かと問われると悩むところもあります。「スタッフの人数が多いからかなあ」とか「ちよつと付き合いが泥臭いからかなあ」「大人が子どもの成長にずっと付き添っているからかなあ」とか…

荒井：たしかにね、そのワードはありますね、特徴を示していますね(笑)





寺田「社会教育的な」「センターっぽい」という言葉はよく飛び交いますが、これが何なのかは、実は我々もよくわかってないのかもしれないです。

荒井「それって面白いですね。でも、「センターっぽい」がキーワードな気がします。それを今度は理屈化して、利用者や職員、研究者と対話を進めていって理論化を進めていく時ではないかと思えます。

実践から裏付けられた理論や、実践によって鍛えられた理論は強く、そういった視点からもセンターではすごい実践をされてきているわけです。ただその自覚がまだ職員の方々には弱いようですが(笑)

山本「利用者の方と「社会教育センターの魅力って何だろうね」という対話をこれからも進めていくことが必要なんですな。

荒井「自由主義的な政策によって、「自分たちでその場を創っていく」というよりは、消費者意識が強くなり、相互に監視しあうようになってしまっただけで、どんどん他者に求める条件が厳しくなっているように思えます。でも、「社会教育とは何か?」というのを職員は理解してほしいし、利用者の方にもぜひ考え続けるようにしてほしいなと、この分野を研究している者としては思っています。

「社会教育(教育)は、「学習する権利」を下支えする仕組み」

荒井「私の理屈で言えば、「社会教育とは何かとは、教育とは何か」を問うことになりません。日本国憲法26条では、「教育を受ける権利」は基本的人権であることが規定されていますが、それは「学習をする権利」だと最高裁の判例でも国連でも認められているものです。なぜ学習が必要かということですが、「人間は生まれながら自由で平等だ」という理念が18世紀に宣言されて今の近代社会があります。ただ、いきなり「人間自由だ」と言われてもみんな困るわけですな。(笑)

自分らしく自由に生きるために欠くことができないのが、生涯にわたって「学び続けること」であり、社会がこれを保証することなんですな。だから学ぶことが20世紀になって基本的人権になってくる。

そのときに大事なものは、あらゆる人の「学びたい」を受け入れ、学びを助言して、支えることです。「そこへいけば信頼できる職員がいる」ということなんだと思うのです。市民の身近なところに、そのための助言やネットワークを持つているのが、社会教育センターの特徴だと思います。誰しもが等しく持っている「学ぶ権利」を生涯にわたって支える

仕組みが社会教育であり、社会教育センターという場がその役割を担ってきていると思います。センターって、なんか「昔の公民館」のような雰囲気ですよ。(笑)

山本「今回から1年間は、「社会教育」を取り巻く課題やこうした話題を、研究者である荒井先生と現場で日々向き合っている職員でディスカッションをしていきたいと思っています。センターに通われる利用者のみなさんともぜひ一緒に考えていきたい話題だなと感じました。今日はありがとうございました。」



▲「やりたいこと」を実現すると笑顔になる!

表紙の講師は...

『水彩スケッチ・日本画』教室
講師 杉本洋 先生

プロフィール

日本画家・杉本洋
東京芸術大学大学院日本画修士
文化庁文化交流使に指名される
個展多数開催。作品収蔵多数。

杉本先生はひの社会教育センターで、水彩スケッチ教室・日本画教室を20年にわたり開講しています。受講している会員さんも長く続けている方が多く、春からは新たに『日本画(水彩・パステル・えんぴつ画)たつぷり5時間アトリエコース』を開講しました。



会員さんへの

応援メッセージ

ここ10年長く続けていらつしやる方が多いので、それぞれの方の描き方で、個性を出し続けていただければというアシストしていきたいと思う。

日本画は特殊に思われがちだが、千三〇〇年続くこれが日本のメインで、伝統のオリジナル技術。この絵画技術が失われることのないよう、支持してもらえたらと願う。



センターからのご案内

ひの社会教育センターでは、政府からの緊急事態宣言に伴い、4/8～5/31の間、臨時休館としておりました。講座の休講及び貸室の中止等、様々な対応へのご協力をありがとうございました。6/1より開館し慎重な判断をしながら、順次再開しています。例年の夏の子ども向けプログラムも「縮小」にはなりますが、準備を進めているところです。

引き続き、新型コロナウイルスの拡大を予防するため、医療従事者にもアドバイスを受けながら、来館者・参加者の【受入れ基準】を策定しました。

来館・参加の際は、下記基準に全てチェックが入る状態でご来館、ご参加ください。

感染拡大予防のため、お互いの安心安全のため、みなさまのご協力をよろしくお願いします。

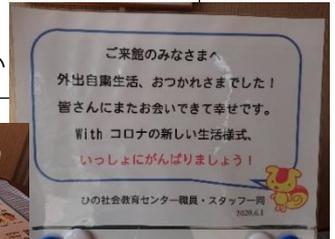
【受入れ基準】

- 飛沫を予防するためのマスクを各自用意できる
- 利用者の居住市区町村が「流行地域」ではない（市区町村レベル）
- 利用者は過去7日間にわたり、毎日検温を実施しており、いずれも37.5℃を超えていない
- 息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ、軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がない
- 同居家族または接触者に過去7日間にわたり上記の症状を発する人がいない
- 同居家族または接触者に過去14日間にわたり新型コロナウイルス陽性者がいない

上記基準をクリアしたうえで、コロナ対策のご協力をお願いします

- マスク着用 ※お忘れの方は1F受付で販売しております
- 丁寧な手洗い
- 室内換気
- 3密（密集・密接・密閉）の回避

いっしょにがんばりましょう！



日野社会教育センターが市より受託運営している、百草の子育て支援カフェ『モグモグ』の大人気レシピをご紹介します！ご家庭でもチャレンジしてみてください🔍

『モグモグ』では日替わりランチ¥570、こどもランチ¥160で提供しています。コーヒーなどのドリンクも¥100～¥130と、とってもリーズナブル🍷

第5回 メニュー紹介！ 『春色のグレープフルーツサラダ』

歴代の調理スタッフから引き継がれているメニューです。さっぱりしているサラダなので、ハンバーグなどボリュームのあるメニューに向いています。

材料 (大人4人分)

- ・グレープフルーツ ホワイト 2個と1/2(果汁を使う)
- ・グレープフルーツ ルビー 2個
- ・ミニトマト 4個
- ・絹さや 4枚
- ・春キャベツ 2枚 (袋入りの千切りキャベツでもよい)
- ・レモンドレッシング 60cc

つくりかた

- ①グレープフルーツの薄皮をむく。
- ②ミニトマトを半分に切る。
- ③絹さやはさっとゆで、斜めに4等分に切る。
- ④キャベツは千切りにする。
- ⑤グレープフルーツのホワイト1/2個の果汁をレモンドレッシングに混ぜる。

- ⑥キャベツの千切りをお皿に敷く。その上にグレープフルーツのホワイトとルビーを飾る。
- ⑦ミニトマトをお花、絹さやを葉っぱに見立てて飾る。
- ⑧最後にドレッシングをかける。ドレッシングをキャベツが吸って、とても爽やかです

★できあがり★



賛助会へのご協力 ありがとうございます

★順不同・敬称略

- ①個人会員 1口 1,000円
田中徹・洋子 10口 伊藤昭夫 3口
- ②団体会員 1口 5,000円
いにしえ体操会 2口 モッキンバード 1口
日野手品サークル 1口 多摩平卓球サークル 10口

新館建設寄付者ご芳名

12/1～6/30 ご寄付いただいた方(順不同・敬称略)

伊藤昭夫

※ご希望によりお載せしていない方もおられます。

たくさんの募金をありがとうございます。



募金総額 6/30 現在
406名+募金箱
¥24,746,327-